

## 大学内にとどまらない学びの場

ゼミや学生が企業・団体とコラボレーションし、外部の様々なギャラリーや施設で展覧会を開催しています。また海外で行われる国際的な写真イベントにも参加。社会と広く関わりながら、写真で何ができるのか、その可能性を模索しています。



肖像写真研究室作品展2019  
ポートレートギャラリー 四ツ谷

肖像写真研究室は、卒業後に営業写真館に就職し、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的にカリキュラムを組んでいます。この作品展では、研究室の学生（4年生）による人物をテーマにした作品および、和装の振り付けなどの実習作品を披露しました。



写真集をつくる展（勝倉ゼミ展覧会）  
nap gallery 末広町

NISSHA株式会社と特種東海製紙株式会社の協力のもと、編集者・藤元由記子氏とグラフィックデザイナー・折原 滋氏をゲストに迎え、勝倉ゼミの学生がデジタル印刷技術による写真集の可能性を模索し、判型の違う18冊の写真集を実際に印刷、製本し、展覧会を行いました。



平成展（小林ゼミ展覧会）  
ギャラリー・ルデコ 渋谷

平成最後の年、学生たちが1年を通してアイデアを出しあい架空の人物、平成（たいら・あきら）を作り上げました。その人物がもし個展を開いたら、どうなるの？予測不能でスリリングな実験的撮影・展示を行いました。



東京工芸大学「写真学科スペシャル」  
アワード2019 作品展  
ソニーイメージングギャラリー 銀座

写真学科の全学生を対象に、優れた作品を表彰する「写真学科スペシャル」。ノミネート40数名による学内展示の後、公開プレゼンテーションから選ばれたグランプリと各賞作品の展示を行いました。会場では本年度の全卒業制作もスライドショーにて上映しました。

### INFORMATION

- オープンキャンパス（芸術学部）  
6月16日（日）第1回オープンキャンパス  
7月14日（日）15日（祝）第2回オープンキャンパス  
8月11日（日）第3回オープンキャンパス
- 入試対策相談会・留学生入試対策相談会 10月6日（日）
- キャンパス見学 月～土 9:00～17:00  
※見学希望の際は必ずご予約をお願いします。☎0120-466-233



〒164-8678  
東京都中野区本町2-9-5  
☎0120-12-5246（入試センター）  
東京メトロ丸ノ内線／  
都営大江戸線中野坂上駅より  
徒歩約7分



### CHECK POINT!

- ✓ 90年以上の伝統と実績をベースとしたカリキュラムで、きめ細かい指導が受けられる！
- ✓ 現役で活躍する写真家が教授を務めているのでリアルな現場の情報がわかる
- ✓ 制作実習を中心に、基礎から必要な知識や技術をじっくりと学び、就職もがっちりサポート！

## 東京工芸大学 芸術学部 写真学科

写真を通して社会と向き合う  
学生の可能性を広げる学びの環境



写真家の小林紀晴や本城直季など、第一線で活躍する写真家を次々に輩出する東京工芸大学。90年以上続く伝統ある写真学科には、8つの研究室があります。今回はその中でフォトメディアを学ぶ研究室から吉野弘章教授、川島崇志助教、ドキュメンタリーを学ぶ研究室から勝倉峻太准教授にお話しを伺いました。

——写真学科の学生は工芸大でどのような学びをしていくのでしょうか。

吉野 1年生から3年生は様々な写真の撮影技術や表現方法を学び、4年生のゼミではより発展的な内容の授業を行なっています。ゼミではそれぞれの先生のもとで卒業制作に取り組みながら、色んなプロジェクトを進行していきますね。

勝倉 私の研究室では、今期は印刷会社や編集者、グラフィックデザイナーの方々に協力してもらい、写真集を制作しています。印刷や紙の表現、デザインも含めて作品を仕上げていく力を養うことができます。

川島 私と吉野先生の研究室では来年行われるオリンピック・パラリンピックに合わせて、東京を舞台に作品を制作しています。他にも、スイスのチューリッヒ芸術大学と連携して、スイスの学生と共同で作品をつくる予定です。勝倉 国際交流で言えば、私の研究室ではアルゼンチンの写真家を招いてワークショップをします。写真集制作もこのワークショップの成果も、学外で

展示会をしたいと思っています。吉野 いいですね。学生にはどんな世界に触れる経験をしてもらいたい。第一線で活躍する方々と交流することで、写真や社会への向き合い方も深めていってほしいですね。僕は展覧会のプロデュースも行なっていますし、川島先生は作家、コマージャーカメラマンとして活動している。多方向の分野からのアドバイスを受けて制作を進められるのも工芸大の強みだと思います。勝倉 教員全員が現場を経験し、今もさまざまな仕事をしているのは、珍しいかもしれません。実際の現場を意識しながら、経験者だからその考え方や技術を伝えられたらと思っています。川島 教員と学生の距離も近いですね。他のゼミの先生とも気軽に話しています。学生は授業を通して豊かな発想を身につけてくれて、同じ写真を学ぶ仲間として心から尊敬しています。——現場を体験できるいい環境ですね。写真技術だけではなく、交流を通してさまざまな刺激が受けられそうです。

吉野 変化する現代でより良い仕事をするためには、技術力だけではなく、提案力や課題解決能力など幅広い能力が必要です。そのために、工芸大では多種多様な経験を通じて時代の潮流を知り、考えることができるようなプログラムを実践しています。学生には、その中で写真の可能性を感じてもらい、アイデアを生み出し、より自由で新しい表現を追求してほしいですね。